



同友しずおか



私の逸品
 真心込めた確かな技術
(株) 岩 松
 詳細はWEBで! (伊東支部)
 静岡同友会

特集

静岡県経済産業部との意見交換会

県条例を柱とし発展する地域社会の実現に向けて県へ要望・提言

会員訪問記

伊藤 光昭氏 伊藤金物(株)・富士支部
中野 博美氏 (株)ナック・榛原支部

その他 主な内容

経営労働問題全国交流会、静岡・志太・榛原支部 青年部合同例会、支部だより、青年部通信、新入会員紹介、友達の輪、会費引落しのお知らせ

平成29年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営を実践する同友会型企业を増やします。
- ② 中小企業振興基本条例運動を推進し、政策実現が行える組織づくり、地域づくりをめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

県条例を柱とし発展する 地域社会の実現に向けて 県へ要望・提言



8月9日(水) 静岡同友会会議室 参加31名



渡辺吉章経済産業部長

静岡県から渡辺吉章経済産業部長、県理事、就業支援局長、商工業局長ら14名、同友会からは遠藤一秀会長、井上斉、河合浩史両代表理事はじめ、山本顧問(静岡大学)、太田准教授(同)ら17名が出席しました。

冒頭、井上代表理事と渡辺経済産業部長の挨拶に続き、遠藤会長から、本年6月期の会内景況調査の結果を報告。全ての業界で、先行きの不安と人手不足の課題はあるものの経営の足元は回復していると語りました。

松葉秀介副代表理事からは、①「静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例」のさらなる周知、②条例の具現化に向けて県と市町のさらなる連携の強化、③中小企業・小規模企業の魅力発信の機会の充実、④中小企業・小規模企業の雇用創出の機会の充実、⑤悉皆調査の実施、並びにPDCAサイクルを回す常設の振興会議の設置、⑥全県経営フォーラムへの県行政からの参加、の6点を要望しました。

本県では依然、人口流出や少子化が顕著であり、特に人材確保難が表面化しています。そのような中でも中小企業・小規模企業は、地域経済と県民の大多数の雇用を支えていることを述べ、会員企業が経営基盤の強化や「人を生かす経営」の実践を通じて、持続的に成長・発展できる地域社会の実現が何より重要と語ると共に、2016年12月に制定された「中小

企業・小規模企業振興基本条例」をより実効性のあるものにするための会議体の開催や悉皆調査の実施等の要望を伝えました。

自社・業界報告は、高木基副代表理事(バリュー・トーカイ(株)・三島支部)、松葉副代表理事(松葉倉庫(株)・志太支部)の二人。法改正に伴う外部環境や業界の変化、経営管理、人手不足などの課題、これらに対するICTの活用や新卒採用・人材育成などの取り組みを発表しました。

その後の意見交換では、要望に掲げた会議体の予定や、市町への協力依頼、人材確保策について県から回答頂きました。また、県運営の無料求人サイト「しずおか就職ネット」や、静岡県新卒採用ガイドブックの紹介もありました。

最後に河合代表理事から、産・学・官が連携し県経済の動向・発展について意見交換できたことへ感謝の意を述べ、幕を閉じました。続けての交流会でも、本音で語りあえる雰囲気の中で開催できました。会員・行政との交流を通じて、改めて静岡県の地域経済、地域社会のさらなる発展にむけた想いを確認しあえる場となりました。



<ご参加頂いた静岡県経済産業部の皆様(敬称略)>

経済産業部長	渡辺 吉章
経済産業部理事(新産業集積担当)	梅藤 久人
就業支援局長	長田 雅孝
商工業局長	大石 勝彦
管理局政策監	古屋 政勝
商工業局技監	望月 一男
商工業局商工振興課長	三須 敏郎
商工業局新産業集積課長	水口 秀樹
商工業局企業立地推進課長	村松 毅彦

商工業局商工金融課長	桑原 裕明
商工業局経営支援課長	松島 通悦
商工業局地域産業課長兼商業まちづくり室長	影山 敦彦
商工業局地域産業課 班長	古橋 弘幸
商工業局地域産業課 副班長	長谷川美雪

<ご参加頂いた静岡大学の皆様(敬称略)>

静岡大学 名誉教授/静岡同友会顧問	山本 義彦
静岡大学 准教授	太田 隆之

「条例の運用と実践に向けて」

毎年恒例の意見交換会。渡辺部長は部局に13年在籍のスペシャリスト。さらに、静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例が制定され、いよいよその具体的な行動指針が示されるべき年度であります。そんな折、本会が開催されましたことは、同友会運動に

おいても大きな期待と責任が混在する記念すべき交換会でした。行動指針に基づく運用と実践、まさに理念条例を産学官連携の中でいかに地域活性化と創生につなげていけるか。同友会としても係わりを持って成し得たいと思います。

今回の意見交換会もこの条例制定後の運用と実践に向け、お互いが忌憚無く、まさに本音の意見交換ができたものと感じております。また、終了後の懇

親会もそれぞれの立場で、お互いの意見のやり取りする姿を見るにつけ、官民の立場は違うが、思いは同じであると感じ得ました。また、静岡大学の山本先生、太田先生にもご臨席賜り、学術研究者の立場から大所高所よりのご意見を賜りましたことにも大きな意味があったことを感じます。

平成22年に中小企業憲章が閣議決定されて以来、各地の同友会では条例制定運動に取り組み、その運

用と実践にかかわってきました。ただ、制定はされたが運用と実践で未だ地方創生、中小企業の発展のために、有効に機能しているそれは多くありません。当地における条例が地方創生に利することを期待してやまず、また、我々の運動がその一助となるべく推進していきたいと思えます。

井上 齊氏（ワシロック工業㈱・代表理事）

「条例と自社経営は不離一体」

初めての意見交換会参加でしたが、経済産業部長はじめ、各担当の皆さんの説明や、その後の意見交換を通じ、県の姿勢、方針として、特に次の二点が確認できました。

①成長分野の更なる成長を促し、そこへの地域の中小企業の関わり増加と、それによる中小企業の発展を推進する。②産業人材の確保、育成など、（産業部門だけでなく、教育関連部門も巻き込みながら）人手不足への対応を最重要課題と位置づけ、取り組み速度を速めていく。短期的視点での対応はもちろん、長期的視点に立つての取り組み、対策を改めて考えていく。

上記二点の重点課題を推進するに当たり、県の役

割と市町の役割分担を明確にしていき、より現場（地域の中小・小規模事業者）に近い所（各市町）での実態調査、フレキシブルな権限移譲や予算の配分を進めていくことなど、大きな方針に対する具体的な要望を交えた有意義な意見交換ができたと思います。また、様々な取り組みを、より強力に、かつ全県的に推進して行くためにも、県条例に基づいた県のより一層のイニシアティブ発揮と、条例を核にした既制定市町との連携強化のアイデア（インセンティブ等）も提案し、それが未制定市町への動機づけになって欲しいことを伝え、同時にそこに我々同友会メンバーが積極的に関わることを約束しました。県や各市町の方針と、自社の経営方針や戦略との整合性を確認し、リンクさせていくことがこれから更に重要になることを再確認しました。

松葉 秀介氏（松葉倉庫㈱・副代表理事）

第5回経営労働問題全国交流会in京都

社員と共に魅力ある企業を 創造し持続可能な企業へ

8月31日(木)～9月1日(金) 京都ホテルオークラ

2日間にわたり開催された経営労働問題全国交流会in京都に参加しました。

まず全体会にて中山英敬中同協幹事長（㈱ヒューマンライフ・福岡同友会）より問題提起が行われ、その後4つの分散会にて学びを深めました。私は第4分散会に参加し、吉武恭介氏（ワコウクリーンサービス㈱・徳島同友会）の「人を生かす経営の実践の取り組み」と題した自社の取り組みと徳島同友会での「人を生かす経営塾」での学びと今後の課題について報告を受けました。

普段参加している全国大会と違い、専門委員会の全国交流会は規模は小さいですが大変密度の濃い学びと普段以上に学びと実践を深



全体会の様子

めている経営者から強い刺激を受けることが出来ました。

経営指針の成文化はもちろんですが、その指針に同友会運動の根底である労使見解がどれだけ基づいているのか？人を生かす経営を実践するために売上だけの計画ではなく、労働環境の整備も含めた経営計画となっているか？10年ビジョンをしっかりと作成しているか？等多くの学びと刺激を受けることが出来ました。

穂坂 勝彦氏（富士宮清掃㈱・富士宮支部）

同友会活動と企業経営は不離一体！

8月29日(火) ペガサート 参加75名



グループ討論



報告の様子

静岡支部青年部では、今年度の活動の柱として「経営者としての人脈づくり」「青年経営者としての資質向上」「本会の盛り上げ役」の3つを掲げています。講師に中同協青年部連絡会代表の中野愛一郎氏（㈱イベント・トゥエンティ・ワン 代表取締役社長、奈良同友会）をお招きし開催した今回の合同例会は、まさにこの3つを具現化する企画で、青年部以外にもオブザーバをはじめ大勢の方が参加する中、バズセッションと懇親会で大いに交流するという、大変有意義なものになりました。

中野氏は「同友会活動と企業経営は不離一体」

を体現する、まさに日本を代表する青年経営者です。売上も社員数も急速に成長する中でも離職率0%、という事実には大変な衝撃を受けました。社員が、社長のため、会社のため、社会のため、そして自分の夢の実現のため、やりがいをもって生き生きと働いています。世界30か国以上を放浪した経験談や、経営者になってからの学びの姿勢と行動力など、圧倒的な人間力を醸し出す中野氏の報告に、参加者一同、多くの感動と学びを得ることができました。

福井 浩司氏（あさひコンサルティング㈱・静岡支部）

◆参加者感想◆

創業者である父親の急逝に伴い、旅人から経営者となった26歳。倒産寸前の業績、古参社員の反発、古い企業体質を変えようと奮闘する日々。社内改革と新規市場開拓を同時に取り組み、わずか一年で売上が倍増させました。

その後も持ち前の行動力、分析力、発想力で社内風土を一変させ、企業理念の下、関わる人・社会すべての幸せを願っています。ユニークな社内会議、進化するビジネスモデルを構築。一人ひとりを大切にする社長の想い、夢に共感し、現在では社員数100名を超える企業となりました。

卓話を通じて、中野氏の人間力、実践力に多くのメンバーが看過され、今まで以上に人と向き合いたい、現状を変えたいと、前向きで活発な意見が多く聞こえてきました。初の試みである、青年部合同例会は、多くの学びと愛溢れる素敵な時間だったと確信しています。

杉山 郁也氏（㈲杉山プラスチック工業・静岡支部）

旅人であった中野社長は「みんなをhappyにしたい」という想いを基に、コスト削減の際も社会貢献や社員を守る仕組みを考え儲かる企業体質へと改新。いち早くweb活用に着目しお客様サービスに全力を注げるビジネスモデルを構築し、「you happy,we happy!」の企業理念を常に社員と共有できる機会（心）、社員が頑張らなくても出来る仕組み（技）、社員が頑張ろうと思える実践環境（体）、この心技体の整った会社の「主体者」を増やす組織づくりで事業を成長させています。卓話を通し、自らの頭を動かさずに社員に対して「なぜやってくれないのか、できないのか」とunhappyな批判をする自分がいかに怠慢であったのか気づきました。自分の頭で考え仕組みを作ることによって社員の力が生きるhappyな環境を作っている、私にとっても大変happyな学びを得ることのできた報告でした。

関 那積氏（㈱中部特機設備・静岡支部）

支部だより

御殿場例会

共に地域の未来を考える

8月9日(水) エピ・スクエア 参加63名



昨年度末より政策委員会を中心として作成してきた「御殿場市中小企業振興基本条例同友会草案」の発表、承認が行われました。

政策委員会が昨年度に設置されてから約1年半。条例とは何ぞや?という勉強会からスタートし、早い段階から行政や市議会、商工会などにもお声掛けをさせていただき、多くの方々の意見を集約した条例草案が完成したと思います。

例会当日は条例草案発表の後、御殿場市商工会会長、御殿場市議会議員、同友会御殿場支部支部長にご登壇いただきパネルディスカッションを開催。今後条例が出来ることによって何が変わるか、御殿場市の中小企業振興施策の未来像について意見交換がなされました。

今回、同友会草案が会内にて承認をされましたが、まだまだ道半ば。今後は行政にバトンタッチして、御殿場市全体での中小企業振興基本条例検討に移ります。基本条例が施行され、真のスタートラインに立つまで、「御殿場市ならではの生きた条例とは何か?」を探り続けたいと思います。

大川 隆久氏 (フエタ工業(有)・御殿場支部)

します。経営指針である「世界の香りをご家庭に…」をモットーに取り組む、情熱ある報告でした。私も高村氏の思い立ったらすぐ行動する姿勢を見習い、自社経営に生かしていきたいと思いました。例会中、高村氏提供のコーヒーを味わいながら、一味違う例会となりました。

上野 祥行氏 (エスティーエス(株)・沼津支部)

富士例会

理念実践と強い信念

8月10日(木) ロゼシアター 参加27名



大川 隆久氏

自社の大変革を赤裸々に語る、御殿場の若獅子・大川隆久氏(フエタ工業(有))は熱かった!一人親方から企業体への変遷、未だ道半ばという本人の言葉とは裏腹に、細かな数字分析から垣間見える野心はとてつもないものでした。

「社長がいつまでも現場の第一線にいては、会社も人も育たない」このことに社員登用をしてから気がついた、と大川氏は述べましたが、まさにこの一言は自分に警鐘を鳴らすかのような言葉でした。人手不足が深刻な現在、共に会社を盛り上げてくれるパートナー探しは難しいです。大川氏が片腕として採用した方は同級生で、言いたいことが言い合える、風通しの良い環境も伺えます。「経営指針を創る会で学んだことが非常に為になった」という言葉も報告の中にありました。

報告を受けてのグループ討論は「社員と共に10年ビジョン」というテーマで行いました。先行き不透明な時代だからこそ「長期ビジョンを作成し、社員と共に実践していく環境作りが経営者には求められる。」ということが確認されました。

今後は今までの得意先とは別の流れで新たなチャレンジを進行中とのこと。大活躍が期待される氏の活動から目が離せません!

川村 晃睦氏 (株)ダイワ装備・富士支部)

沼津例会

コーヒーと共に半世紀

8月16日(水) プラサヴェルデ 参加60名



高村 巖氏

高村巖氏(株)アラビカコーヒー)による報告が行われました。1974年に(株)ヨシズ商事としてコーヒー焙煎卸売業を開始。当時、経営環境は厳しく営業しても社名からコーヒー卸売業とは分からず相手にされないこともしばしばでした。

10年が経過し、社名を(株)アラビカコーヒーに変更。同じ年に沼津の仲見世に珈琲豆専門店、こーひい問屋を開店しました。卸売業から小売業への転換、店舗での販売方法の確立と、高村氏のinspiration「直感からのひらめき・瞬間的に浮かぶ思いつき」により、順調に店舗拡大をしていきます。そんな中、競合他社との差別化を図るため海外に自ら足を運び現地のコーヒー農園で豆を買付け、安定した豆の品質を確保するため農園と契約、お客様に常に美味しいコーヒーを提供していくことを実現

富士宮例会

ガンにも感謝!これが私の生きる道

8月4日(金) 志ほ川 バイパス店 参加47名



元会員の稲葉澄子氏(有すみ企画)の報告でした。稲葉氏は73年に富士宮市で美容室デラモード・イン・スミを開業。その後、市内外に展開し、順風満帆に経営を進めます。しかし08年にステージ4の末期がんの告知を受け、1年に

及ぶ闘病の末、病を克服します。

同友会に入会したときは、経営理念がありませんでした。しかし、入会してすぐに経営理念を作成し、会社に取り入れました。朝の朝礼に読み上げ、新人研修でも経営理念を教え、社内に浸透させてきました。また、先輩会員に「自分の右腕左腕を作れ」と教えられ、ガンの告知を受けたときはもうそのような従業員がいたため、仕事上のことは心配していませんでした。その後、ガンを克服して、神様がまだやることもあると言っていると思い、ガン患者のための美容室を始めました。ガン患者は、治療による副作用で髪が抜けることが多く、それゆえ人と会いたくない方が多いため、大変喜ばれ、業績も順調に伸びていきました。

報告後に先輩会員から、「稲葉さんは同友会で学んだことを素直に会社の中で実践してきた人」と紹介され、そのような姿勢が社員や地域に受け入れられ、業績を伸ばしていく要因になったことを聞きました。稲葉氏のように素直に謙虚に実践していくことが大切だと教えていただきました。

金子 佳正氏（金子石材滝戸・富士宮支部）

静岡例会

条例が出来て、なにが変わるの？

8月8日(火) ペガサート 参加61名

2016年12月に藤枝市で制定された「藤枝市地域

経済を支える『がんばる中小企業』振興基本条例」。その制定までの取り組みを、松葉秀介氏（松葉倉庫(株)・志太支部、県副代表理事）が報告しました。地域振興や人材育成等の課題に取り組むなかで条例の必要性を感じ



松葉 秀介氏

た松葉氏は、経営理念と理念条例に共通点を見出し行動するのですが、行政はなかなか意見を聞いてくれません。その理由が行政の取り組みについて知らないことにあると気づき、その取り組みを知ることから始めました。何もないところから、地域のために条例が必要と感じ10年以上に亘って取り組んできた松葉氏。反発もある中で、障壁を乗り越えながら変えていく信念に圧倒されました。なぜ理念条例なのか、草案に込めた思い。条例づくりは会社のムード、風土、制度を作ること。作ったからには責任がある、作って終わりではなく、生かしていく。具体的な政策よりも条例という仕組みを作ることが大切だということ、これからは実行フレームを作り取り組んでいくこと。松葉氏の取り組みがつぶさに伝わりました。バズセッション「経営者としてどんな静岡市を作りたいか？」では、常に地域に対して関心や問題意識持つこと、信念をもって進めること、言い続けることは自社経営と同じであるということに気づかされました。

宮田 博文氏（(有)ミヤタ印刷・静岡支部）

連載 -- Seinenbu Tsushin 青年部通信

第 6 回

私の青年部との関りは、静岡での青年部設立記念式典からになります。昨年からは青年部活動が始まったとは聞いていましたが、正直青年部は必要なのか？という思いが強かったです。私が同友会に入った理由の一つに、若手から年配の方までが分け隔てなく平等に意見を言い合え、先輩から様々な経験談やアドバイスをもらえることがとても良いと思ったことがあります。ですので、青年部を作り活動することで逆に視野を狭くしてしまうのではないかと考えていました。そんな自分の思いも昨年石川で行われた青年経営者全国交流会に参加して一変



小松 寛氏

します。私は下園正博氏（(株)下園薩男商店）の分科会に参加しました。下園さんは鹿児島でイワシの丸干しを製造している干物屋さんです。私も沼津で干物を製造している干物屋さんです。共に衰退している業界ですが、下園さんは旅する丸干しというセレクトショップで取り扱うようなお洒落な商品を開発し、販路を増やすことで業績を上げていました。また、経営方針発表会の開催や、海外の見本市に出展するなど私の一歩も二歩も先に進んでいました。同じ業界、同じ年代の人間に先を越されていると思った時に、凄いと同時に負けられないという思いが芽生えました。こんな鳥肌が立つような思いを経験できることが青年部の良いところだと思います。これからも負けられないという思いを糧に日々成長していきたいと思います。

小松 寛氏（(有)ヤマカ水産・沼津支部）

半世紀を越える老舗金物屋

伊藤金物(株)

代表取締役社長 伊藤 光昭氏 (富士支部)

事業内容：機械工具、工場設備、スチール製品、実験用品、土木資材など

創 立：1964年12月

社 員 数：社員6名 パート2名

入会年月：2011年8月

所 在 地：富士市横割5-2-9

T E L：0545-61-2901

現場の問題は伊藤金物(株)へ

創業は1964年12月の半世紀を越える老舗金物屋さんです。伊藤氏が3代目になります。仕事の内容としては、工場等の間接材(MRO製品)の卸売や工場や研究所などの現場にある“いろいろな”問題解決を中心に仕事をしています。研究所などの転倒防止の工事などクリーンルームの中の仕事は綺麗で丁寧な仕事をすることで評判が良いそうです。

新社長になって

今年の6月に社長に就任したばかりの伊藤氏は、気持ちの変化について「会社のこと、社員のこと、お金のこと、会社とは何かを考えることが多くなりました。それと、同友会で学んだことを自分なりのスタンスに

当てはめるようになり、実践するようになりました。」と話してくれました。



伊藤 光昭氏 (中央)

どのような会社を目指すのか

目標は「社員がやりたいことをやりたいようにする会社、やりたいことをして利益を出して家族に還元する！」と話す伊藤氏。「仕事も家庭も充実させることのできる会社をしたい。」そんな想いは「1人の人間を見るときは後ろに5人の人がいる」という先々代の言葉に影響を受けているそうです。社員だけではなく、その家族のことも考えるということを中心に考え、昼間は一生懸命働き、定後はゆっくり家族と過ごす。そんな当たり前のライフスタイルを送ることを会社のスタンダードにしようと挑戦をしています。伊藤氏が今一番大切にしていることは「みんなが早く帰ること」。仕事も家族も大切にしている様子をすぐくうらやましく思いながら、優しい目で取材に答えてくれた伊藤さんに感謝しつつ横割の会社を後にしました。

取材・記事：渡邊 正仁氏 (南丸之工務店・富士支部)

全ては必然の縁

(株)ナック

代表取締役 中野 博美氏 (榛原支部)

事業内容：屋根・外壁・リフォーム全般・クーラーフネット施工・建材販売

設 立：2004年1月

社 員 数：5名

入会年月：2007年9月

所 在 地：牧之原市勝俣1058

T E L：0548-22-8167

Nice Assist Company

(株)ナック (NAC) は、屋根・外壁・リフォーム全般・クーラーフネットなどを取り扱う建設業です。

一言で表すとサラリーマンに向いていなかったと語る中野氏は、警備会社、旅行会社、建築板金会社と、様々な業界での経験を経て43歳で独立。地元では小・中・高とPTA会長を務めるなど献身的な活動をしていた一方で、推薦してくれた方々、協力してくれた方々、子供をはじめ家族の理解のお陰と常に謙虚であり、人との縁を何よりも大事にしています。

全ての縁に感謝

経営上の信念である「1. ナックに関わる人全てが良かったと思える会社創り。」「2. 個人も会社も常に進歩(進化)しなければならない。常に勉強と努力。」「3.

創意工夫 既成概念にとらわれず、応用力を身に付け、発想の転換。」「4. 仕事と家庭、比較するものではない。どちらも大事。仕事に夢中になり、家族を大事にして有意義な人生」を教えてくださいました。どれも人に関わる大事な価値観である



中野 博美氏

のが、中野氏の「縁」に対する思い入れが強く、恩返しをしていきたいという気持ちが伺えました。

山本正巳氏 (ハイナンサミットルーフ) から紹介をうけ同友会に入会。現在では2期目の副支部長を務めている人望も厚い中野氏は、人脈が広がったことで、経営の想いや悩みなどを共有できる仲間が出来たことが一番の宝物になっていると話してくれました。

今の自分は好きか?

人との繋がり(縁)を何よりも大事にしている中野氏は「例え良縁ではなかったとしても偶然の縁なんか無い。全ての縁が必然であり、それを含めて今の自分がある。そこに好きな自分自身がいたら、全て受け入れることが出来る」と語ります。

常に「今の自分は好きか?」と自問自答しているそうです。

取材・記事：河内 崇文氏 (株)スマートブレイン・榛原支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1083名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
かつまたのりお 勝又則雄	(株)金ペン堂 文具・OA機器販売 (一般文具、事務機器、オフィス文具、文具工房、パソコン関係、各種工事)	御殿場	加藤正弘
すぎやまよしひこ 杉山嘉彦	(株)サカグチヤ 豆腐・油揚製造業 (豆腐・油揚・生揚・こんにゃく・その他豆腐加工品)	御殿場	勝又薫
うめだゆうき 梅田祐希	(有)ブレイブエージェンシー 保険業 (損害保険代理業・生命保険の募集に関する業務)	沼津	渡邊隆太郎
いいのあきひろ 飯野明宏	飯野明宏税理士公認会計士事務所 税理士業・公認会計士業 (税務代理・経営コンサルティング)	富士	事務局
まつしたじゆんこ 松下純子	Presence キャリアコンサルタント・講師 (人材開発・人材育成に関する研修、コンサルティング、カウンセリング、メンタルヘルスサポート、ストレスチェック対応、新卒採用サポート、イメージアップコンサルティング)	榛原	横山賢三

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第41回

原田祥太郎さん (スピードワーク・三島支部) よりバトンを受けました、(株)一電工の古川一郎です。主な事業内容は建築工事における内線電気工事です。私は創業者で、個人事業から法人化する際、自分の名前である「一」と一人の電工 (電気工事職人) としての原点を忘れないように「一」を念頭に社名を付けました。

開業してからは、特に労使の関係に悩むことが多かったのですが、そんな折に、笹沼幸雄さん (イーコン・沼津支部)、から勧められ、同友会に入会。その後も数年間は試行錯誤の日々でした。例会や、全県の集会に出て、学んだことを取り入れてはみたものの、なかなか労使関係は好転せずでした。そこで昨年、経営を一から勉強をし直すべく、第13期の経営指針を創る会に入会しました。半年間、自分を根本的に見つめなおす機会を得て、また、同期の仲間たちとの切磋琢磨を経て、経営指針をまとめることができました。悩んでいた労使関係の答えも見つかり、それを実践することで非常に良好な労使の関係を築けています。今は、自分が生まれ変われ変わったような新鮮な気持ちで毎日が過ごせています。

次回の友達の輪は川村友美さん (こるどん(株)・静岡支部) です。13期経営指針を創る会の同期生、若くとも、素晴らしい経営者です。川村さん宜しくお願いします。



古川 一郎氏

古川 一郎氏 (株)一電工・三島支部

静岡県中小企業家同友会会費 口座振替のお知らせ

口座振替日/平成29年10月6日(金)

振替会費/平成29年度下期会費(平成29年10月~平成30年3月)

振替額/支部既定の通り

上記の通り、会費をご指定の口座から振替させていただきますので、ご確認をお願い致します。

なお、領収については、通帳への記帳をもって代えさせていただきます。

納入代行会社は「SMBCファイナンスサービス(株)」通帳印字は「SMBC (ドウユウカイ)」名で引き落としされますのでご注意ください。



静岡同友会 Facebook ページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください！

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。